

製品名: STAT3 (リン酸化 Tyr705) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21081**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	ホスホ
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:88kD;Observed MW:88kD

抗原情報

遺伝子名	STAT3
別名	STAT3
遺伝子 ID	6774.0
SwissProt ID	P40763
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

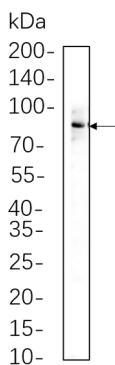
背景

細胞局在: 細胞質。核。核と細胞質の間を往復する。活性化 FGFR1、FGFR2、FGFR3、または FGFR4 のシグナル伝達にตอบสนองして、チ

ロシリン酸化および二量体化により核へ移行する。核内での恒常的な存在は、チロシリン酸化とは無関係である。刺激がない場合、主に細胞質に存在する。白血病抑制因子 (LIF) 刺激により核に蓄積する。BART と ARL2 からなる複合体は、STAT3 の核への移行と保持に重要な役割を果たす。LYN および PAG1 との複合体で同定される。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、STAT タンパク質ファミリーのメンバーである。サイトカインや成長因子に反応して、STAT ファミリーのメンバーは受容体関連キナーゼによってリン酸化され、その後ホモ二量体またはヘテロ二量体を形成して細胞核に移行し、そこで転写活性化因子として作用します。このタンパク質は、インターフェロン (IFN)、EGF、IL5、IL6、HGF、LIF、BMP2 など、様々なサイトカインや成長因子に反応してリン酸化され活性化されます。このタンパク質は、細胞刺激に反応して様々な遺伝子の発現を媒介し、細胞増殖やアポトーシスなど多くの細胞プロセスにおいて重要な役割を果たします。低分子量 GTPase である Rac1 は、このタンパク質に結合してその活性を制御することが示されている。PIAS3 タンパク質はこのタンパク質の特異的阻害剤です。この遺伝子の変異は、乳児期発症型多系統自己免疫疾患や過形成性自己免疫疾患と関連しています。

研究分野

画像データ



Hela 細胞全細胞ライセートを 10% SDS-PAGE で分離し、膜を STAT3 (リン酸化 Tyr705) ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG (H + L) 抗体を用いた。